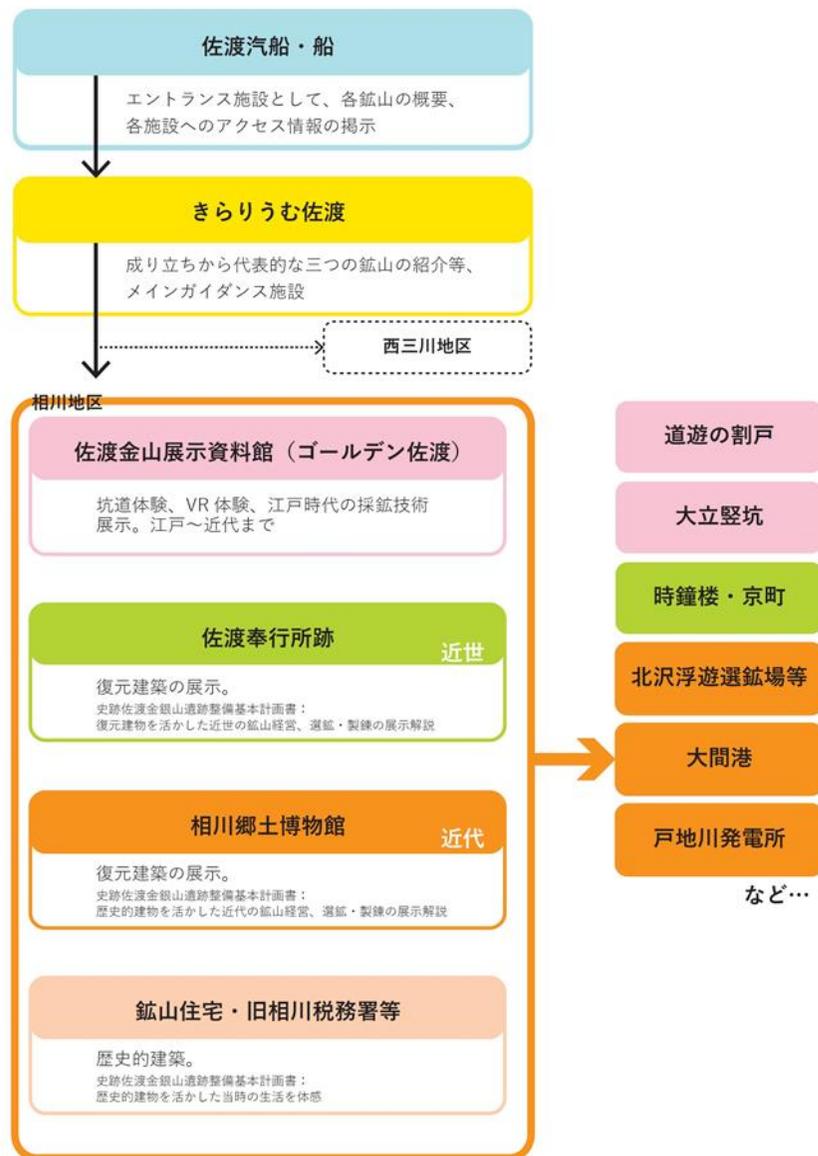


展示シナリオ及びゾーニング(案)

1 相川郷土博物館の位置付け



2 展示の目的と対象

相川郷土博物館では、相川金銀山における近代の鉱山運営の歴史や当時の相川に住む人々の様子を知らることができる展示を目指す。さらに、「観光地としての博物館の位置付け」を重視し、ガイド施設としての活用を踏まえた展示を目指す。

サテライト・ガイド施設としての役割

北沢浮遊選鉱場等の関連施設との密な連携。
展示で詳細を解説し、周辺関連施設で実物を見る。

観光地としての博物館の位置付け

観光客のニーズへの対応として、関連史跡（近代）のガイド施設的な役割を果たすため、各史跡への交通アクセス等の案内を行う。

市民・観光客の更なる利用を促進

相川町時代から地域の博物館であり、地元住民の愛着がある施設である。
地元住民の施設利用を促すことで、若い世代にも愛着を持ってもらい、更に観光客との交流人口の促進を目指す。
そのために、定期的にユニークメニューやサイエンスカフェ等のイベントが出来る様に、旧鉱山事務所の展示室はフレキシブルな空間とする。

周辺関連史跡との連携

北沢浮遊選鉱場や大間港等、近隣の関連資源のイベントと連動した活用を目指す。

展示物の対象年齢

小学校5年生以上とする

次代の子どもへに地元の歴史への理解や愛着を持ってもらうため、小学校5年生以上を対象とした、だれにでも分かりやすい展示とする。

多言語化

外国人旅行者にも対応するため、グラフィックパネルは英語併記とし、音声多言語コードで5ヶ国語（日本語、英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語）を表記する。

3 展示テーマ

北沢と中心とした、近代の佐渡鉱山

建物を紹介する導入展示と、テーマ別展示で構成する。
導入展示において博物館内展示へ導くとともに、テーマ別展示で来館者の興味を喚起し、
周辺関連施設（北沢浮遊選鉱場等）へと誘う。

4 展示ゾーニングと動線計画

I. 建物の紹介

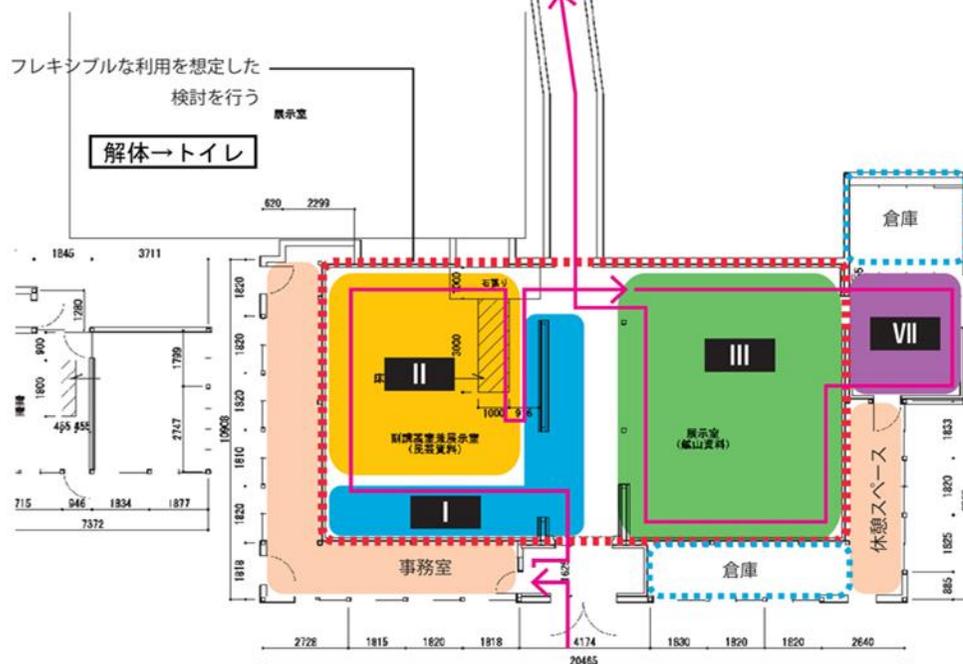
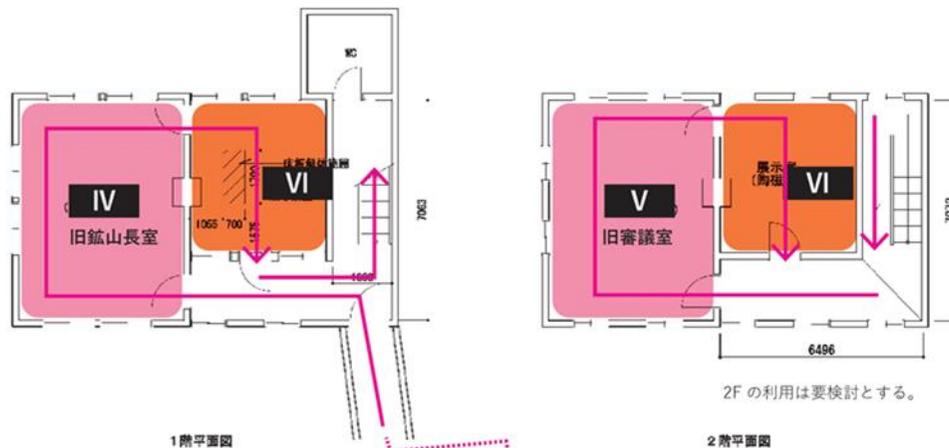
II. 近代佐渡鉱山の歴史

III. 近代佐渡鉱山を支えた技術

VII. 鉱物実験

IV-V. 当時の御料局佐渡支庁

VI. 人々の暮らし



I. 建物の紹介

近代鉱山を長年にわたり管理してきた御料局佐渡支庁跡と旧鉱山事務所。地域の人々に愛され、事務所としての役割を終えた後は相川町に払い下げられ、現在の相川郷土博物館へと姿を変えた。その歴史や地域との関わりと込められた住民の想い、史跡としての価値を未来に伝える。

- 導入展示（展示テーマ）
- マップ（施設マップ＋北沢周辺マップ）
- 来歴紹介（年表）
- 博物館としての取り組み
- 耐震改修による調査結果等

II. 近代佐渡鉱山の歴史

近代化の始まりから閉山までの歴史を紹介する。日本でも有数の鉱山技術を持ち、皇室財産にもなった佐渡鉱山がどのように発展を遂げたのかを、それぞれの時代の管理者の違いや、選鉱や製錬技術の違いから比較する。

- 近代化のはじまり
- 鉱山の発展
- 佐渡鉱山皇室財産へ
- 佐渡鉱山民営化
- 三菱運営：近代化の推進、電力の導入
- 戦時下の鉱山
- 戦後の鉱山

III. 近代佐渡鉱山を支えた技術

現存している各施設を中心に、その仕組みや役割、製錬技術等の変遷を解説するとともに地図等を用いて視覚的にわかりやすく位置関係を説明する。

- 大立地区
- 高任地区
- 間ノ山地区
- 北沢地区
- 大間地区
- 戸地地区

IV-V. 当時の御料局佐渡支庁

建設当時の内装が色濃く残っている建物の特徴を生かし、当時使用されていた鉱山長室及び応接室を再現し、建物が使用されていた当時に想いを馳せてもらう。

- IV. 再現鉱山長室
- V. 再現審議室

VI. 人々の暮らし

鉱山祭等の鉱山町の生活・風俗についての展示。当時の人々の様子から現代に通じる祭りや風俗について新資料を中心に展示。建物の劣化が酷く、重量物は置かない方法をとる。

- 鉱山祭り
- 相川の風景

VII. 鉱物実験

北沢浮遊選鉱場などによる金の採取方法や金の性質について理解を深めるためのハンズオン展示する。

- 鉱物の重さを体験しよう
- 鉱物の豆知識



周辺の文化財や市内観光施設・観光地との連携を図る